

野田物語

民俗学者・宮本常一 ⑪

宮本が歩いた

50年前の川間(四)



昭和31年に宮本常一が撮影した尾崎の威徳院(上)と茅葺の農家(撮影地不明)／写真提供=周防大島文化交流センター

宮本常一は3度、調査で川間村を訪れました。今回は最後となった、昭和31(1956)年6月1日の日記をご紹介します。「三田。川間↓大宮↓三田。朝、10時半のバスで川間へゆく。正午につく。午後農場へいってはなしをさく。夕方まで書いて、夕はんをすまし駅へ出る。田植も大分すすんで来た。ことをしきりに思い出す。大宮をまわって10時に三田へかえる」とあり、記述の内容から、さまざまなことが分りました。はじめに、「朝、10時半のバス

で川間へゆく。正午につく」という記載から、当時の交通手段がいくつか推測できます。三田から有楽町駅か田町駅までバスに乗り、京浜東北線で大宮を経由して川間駅へ向かうルートや、東京駅八重洲口から野田へ向かう急行バスに乗る方法です。しかし、バスは八重洲口から愛宕駅まで約1時間40分で、さらに電車で川間駅まで行くと、2時間以上となることから、日記の記述とは異なります。この日の帰路は大宮経由だったことから、往路も京浜東北線を使ったルートだったのだ

かもしれませぬ。

「午後農場へ行ってはなしをさく」とあります。周防大島文化交流センターによれば、宮本が残した「調査手帖」の中には、「川間村の作付面積 農業収穫量調べ 戸数、電燈、ラジオの普及等調べ 古谷氏の聞き書き 村の昔の様子 農協での聞き書き」などと書かれたメモがあるそうです。

中でも「農協での聞き書き」と書かれた部分には、6月1日の日付があることや、報告書の「農業協同組合の章」を、宮本自身が執筆していることから、本人が直接、川間村農業協同組合(現・ちば県北農業協同組合川間支店)を訪ねて調査している可能性が高く、日記の「午後農場へ」は「午後農協へ」だったのかもしれませぬ。「夕はんをすまし駅へ出る。田植も大分すすんで来た」という記述から、宮本たちはまだ明るいうちに中里で夕食をし、田植えが進んだ光景を見ながら、県道川間停車場線を歩き、川間駅へ向かったと思われる。本文中敬称略(次号へつづく)

【取材協力】吉岡繁氏
【参考資料】「宮本常一写真・日記集成」(毎日新聞社)

6月の休日当番医

休日当番医での診療時間
外科・産婦人科=9時~22時(ただし16時~19時は除く)
内科=9時~16時(19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
1日(日)	門倉医院(☎7124-5311)	梅郷痛みと内科のクリニック(☎7126-1900)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
8日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	あら山こどもクリニック(☎7129-7149)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
15日(日)	西村クリニック(☎7123-0050)	むらた内科循環器科クリニック(☎7127-8800)	小張総合病院(☎7124-6666)
22日(日)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	うちだ内科クリニック(☎7127-8181)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
29日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	江医院(☎7124-2831)	杉崎クリニック(☎7125-1070)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。


急病センター ☎7125-1188

▼内科(小児科)=19時~22時(毎日)
▼歯科診療=9時~12時(休日)

▼季節を表す「季語」は、実に美しい日本の文化だと思えます。稲畑汀子著「ホトトギス季寄せ」には、春夏秋冬を表現する言葉が、月別に並んでいます。▼俳人中村草田男が、初めて季語として使った「万緑」は、王安石の「万緑叢中紅一点」が出典で、見渡す限りの緑を意味します。▼今、野田市はまさに「万緑」。文化センターや、旧日光街道から市役所の玄関へ向かうまでの櫛の緑蔭は、とても気持ちがいいものです。▼また、田植を終えた江川地区の里山の風景も、今まさに「万緑」です。(き)


編集後記

市の木




けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり